

こども食堂サポート機能設置事業

事後評価を  
実施するまで

2023年2月21日  
全国食支援活動協力会

# 事業概要

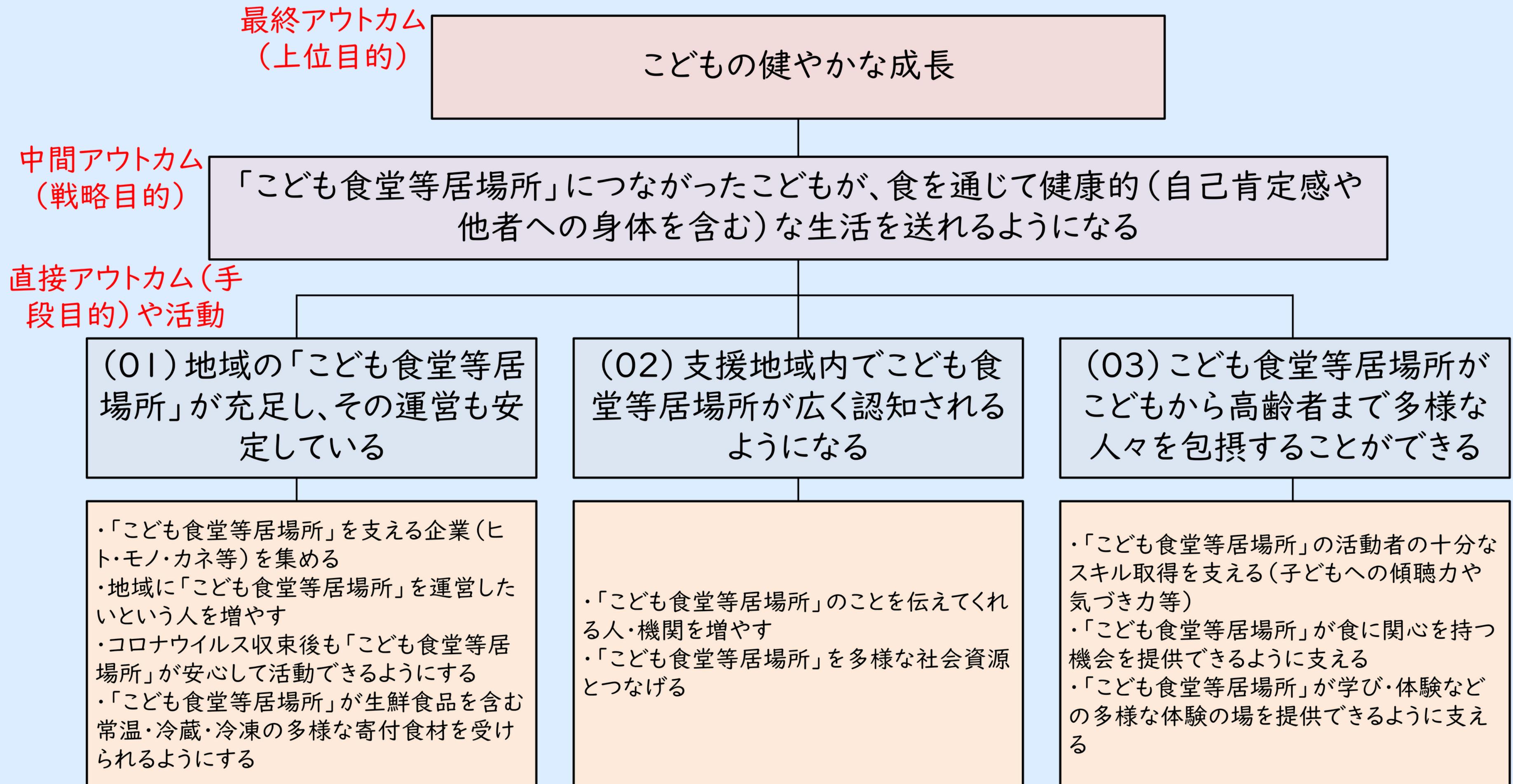
## 事業目的

こども食堂等居場所への支援を展開することで、活動団体の運営を支え、当該地域における子どもの健やかな成長等に貢献することを目指す。こども食堂の立ち上げ支援や、運営のサポートや地域資源との連携強化などを行うことでソフト面を支援する

## 解決したい課題

- ・子どもの貧困（体験や経験の貧困を含む）、子どもや家庭の社会的孤立
- ・こども食堂等の運営基盤の脆弱さ（経営や関係機関との連携を含む）
- ・特にコロナ禍において上記の課題が深刻化している
- ・支援を希望する企業等の存在はあるが、これらの善意が生かされない

# ロジックモデル(本事業の作戦体系図)



# 事後評価の目的を言語化

資金分配団体  
の考え方

## 事後評価によって明らかにしたかったこと

- 社会的インパクト評価の実施：ロジックモデルの妥当性

こども食堂をサポートするモデル（ロジックモデル）を通じて、有用な支援を届けることができているかどうか。また、アウトカムの達成状況を把握する+現状のニーズに応じて常にサポート機能を見直し更新してきたかを振り返る。

- サポート機能の好事例の可視化

直接アウトカム等に対して、どのような活動を行うのが有効か、各サポセンのエピソードなどを収集しながらまとめられれば良いのではないか。

→サポートセンターの機能(好事例)を地域毎でまとめる（例：ニーズに対応して新しく始めた支援活動、新しい支援の仕組み・連携のサクセスエピソード）

# 事後評価の目的の共有

合同研修会  
を開催

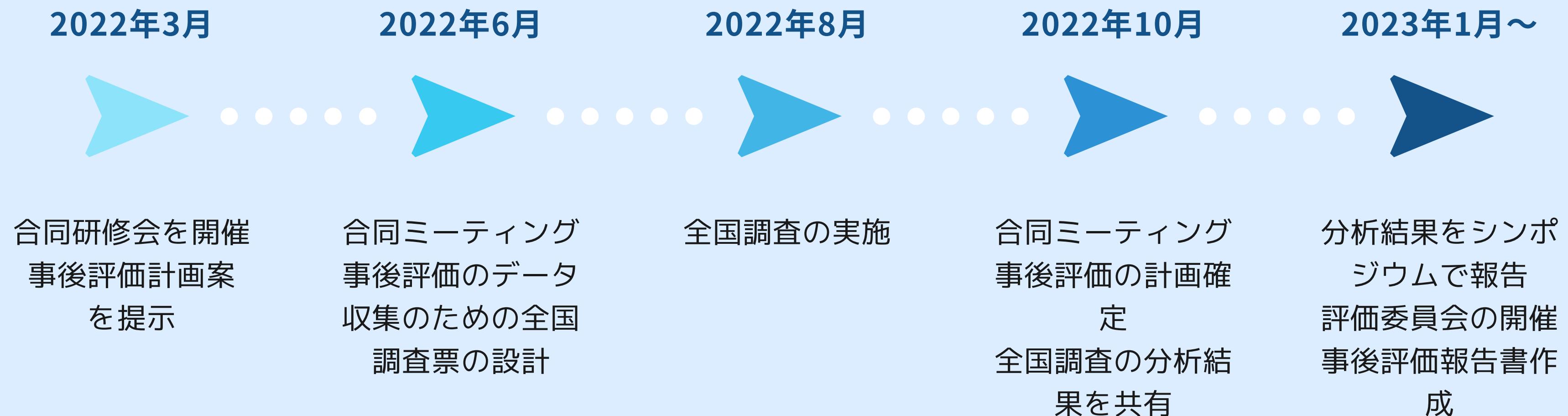
## 資金分配団体としての狙いを実行団体に伝える

本事業のロジックモデルが有効であったこと（こども食堂支援に中間支援機能が有用であること）を行政機関や企業・団体に示すこと

## 評価アドバイザーに助言をもらう

目的に即したかたちで成果を示すために有効な評価方法について意見をもらい、どこまでならできるか実行団体と議論した。「前後比較だけでなく、あるプロジェクトの純粹な効果を出すためには介入したデータ（事実）と介入していないデータ（反事実）の両方が必要」「中長期アウトカムの達成状況も可能な範囲検証すべき」

## 事後評価の計画からのながれ（資金分配団体）



02

実施中

## 事後評価の計画からのながれ（実行団体）

2022年3月



合同研修会に参加

2022年6月



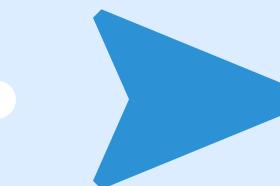
事後評価の意見交換  
　　合同ミーティング  
　　事後評価の目的を再  
　　確認

2022年8月



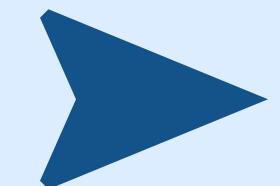
事後評価計画・実施  
までの流れを説明

2022年10月



評価アドバイザーを  
交えて事後評価計画  
内容の点検・確定

2022年11月～



事後評価計画に基づ  
きアンケート調査や  
ヒアリングを実施

# 事後評価結果の発信

## 成果シンポジウムの開催

子ども若者支援における中間支援組織の役割と意義・今後の中間支援組織による支援のあり方について討論する場を設け、中間支援を行う団体が今後の支援に向けて必要な視点を獲得するとともに、行政、自治体との関わりにおける課題の共有を図った

## 評価委員会での報告・総括

事業アウトカムに対する達成状況を報告し、休眠預金を活用して本事業を行った意義などについて分野専門家・評価専門家から意見をいただく場を設定。

